

シンポジウム等の概要について(事後報告)

1 名称:公開シンポジウム「越境大気汚染と酸性雨 ー現場から将来予測までー」

2 日本学術会議の主催者: 日本学術会議 環境学委員会環境科学分科会、化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会

3 その他の主催団体等:

共催: 国立研究開発法人国立環境研究所、大気環境学会植物分科会、大気環境学会関東支部植物影響部会、大気環境学会酸性雨分科会、酸性雨研究会

4 開催日時: 平成28年11月8日(火) 13:00 ~ 17:40

5 開催場所: 日本学術会議講堂

6 開催趣旨:

大気汚染や酸性雨は、その影響が国境を越えて広がり、対策に国際的な取組が必要な地球規模の環境問題である。例えば大気汚染の光化学オキシダントの主成分であるオゾンハ、生物に様々な影響を及ぼし、将来の生態系や食料生産に対する大きな脅威となっている。今後、特に経済発展の著しいアジア地域において、大気環境の急激な悪化が危惧されることから、その実態の把握や生物への影響評価、将来予測をすることは、対策を考えるうえで必須である。そのためには、分析、観測、モデル、遺伝子から生態系まで様々なレベルでの影響評価など広範な分野にわたって研究が行われる必要があるが、まだ知見の蓄積が不十分な分野もあり、総合的な理解には至っていない。本シンポジウムでは、観測とモデルの連携による東アジア越境大気汚染の総合的な研究についてのご紹介に加えて、分析や影響評価の手法、植物を中心とした大気汚染被害の現場における研究の現状についてもご紹介いただくとともに、今後の研究の方向性などについて議論する。

7 参加人数:

講演者等:10名

その他の参加者:104名

8 特記事項:

③共同主催団体等における事後の取組: 共催した国立研究開発法人国立環境研究所 HP(下記 URL)において、開催報告(当日写真)及び講演要旨集 pdf を掲載した。

<http://www.nies.go.jp/biology/Events/20161108/index.html>